

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100313		
法人名	㈱フロンティアの介護		
事業所名	グループホームおおさとの憩		
所在地	山梨県甲府市大里町3375-1		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成28年10月13日(木)		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じてもらえるように年間行事を実施し行事食や入居者の方々に食べたい食事を提供している。介護付き有料老人ホームと合同の夏祭りを開催し地域の方々と親睦の場になっている。生き生きと生活出来る環境を心掛け、その様子を毎日ブログでお伝えし、施設での生活を何時でも見て頂けるよう公表している。職員が考えた接遇5原則を朝礼時に大きな声で唱和し、心のこもった支援を行ない、笑顔の多い良質のサービスを提供しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の主体は、㈱フロンティアの介護事業所として全国に約50の施設があり、介護有料老人ホーム、グループホーム等を運営している。事業所は木造平屋造りとなっており、中庭を挟んで同一敷地内に介護有料ホームが建てられている。各居室にそれぞれの利用者に対応した緊急時対応マニュアルがあり、救急時の対応手順が書かれ職員が素早く対応できるようにしている。毎月体操、傾聴ボランティアの訪問があり利用者で交流している。快適な暮らしのために、よりきめやかなサービスをモットーに会社で統一した接遇5か条、「挨拶、態度、表情、身だしなみ、言葉づかい」を理念として職員は利用者へ寄り添い日々の支援に努めている。また、スタッフブログが毎日更新され、日々の様子がうかがえる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおさとの憩

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社統一の我々の接遇5原則挨拶・態度・表情・身だしなみ・言葉遣い、介護の心得5か条、身体拘束廃止を朝の申し送り時に職員全員で、唱和し意識確認している。	会社統一の我々の接遇5原則挨拶・態度・表情・身だしなみ・言葉遣い、介護の心得5か条、身体拘束廃止を朝の申し送り時に職員全員で、唱和し意識確認している。	会社の介護心得5か条の他に、事業所で考え独自に作りあげた地域密着型サービスの意義をふまえた「笑顔の輪、地域の輪、言葉の愛」の理念をフロアに掲示している。朝礼や会議等で日々のサービスを振り返りケアに反映されているか確認し、管理者と職員は住みよい生活が出来るよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大里地区の行事を民生委員の方や社会福祉協議会の委員の方々からお誘いがあり地域の行事に参加している。側溝掃除、運動会、文化祭、ふれあいサロン、歌声のつどいに誘いを受けて参加している。	大里地区の行事を民生委員の方や社会福祉協議会の委員の方々からお誘いがあり地域の行事に参加している。側溝掃除、運動会、文化祭、ふれあいサロン、歌声のつどいに誘いを受けて参加している。	運営推進会議に出席している民生委員やオーナーから地域の情報を集めて、行事や地域活動に参加するなど地域住民と交流を深めている。また、事業所で開催する夏祭りに地域の人たちを招待したり、ボランティアの訪問がある時などは、近隣に住む一人暮らしのお年寄りにも呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の会議や他グループホームの運営推進会議に参加をしたり、奉仕活動に参加して近所の方々との関わりを大切にして認知症の理解を深めている。	民生委員の会議や他グループホームの運営推進会議に参加をしたり、奉仕活動に参加して近所の方々との関わりを大切にして認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施日の案内をご家族、民生委員、地域包括、オーナー等に送り参加のお願いをしている。議題を決め家族や職員、推進委員との意見交換をしている。	運営推進会議実施日の案内をご家族、民生委員、地域包括、オーナー等に送り参加のお願いをしている。議題を決め家族や職員、推進委員との意見交換をしている。	2か月に1回、土曜日の午前中開催している会議には、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、オーナー等が参加し、事業所からの報告や議題をもとに話し合い、質問、意見、要望を受けている。最近の台風災害の教訓からマニュアル作成の意見があり、地震、水害、土砂災害、大雪の防災マニュアルを作成した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当、地域包括支援センター職員と連携を取り、運営推進会議の内容、おおさとの憩新聞を甲府市に提出し情報の共有、指導を仰ぎ交流を深めている。	市町村担当、地域包括支援センター職員と連携を取り、運営推進会議の内容、おおさとの憩新聞を甲府市に提出し情報の共有、指導を仰ぎ交流を深めている。	運営推進会議の議事録や書類等は市町村担当者へ手渡している。また、事業所の待機待ちや空き室状況等相談事項に応じてもらえるよう協力関係を築いている。月1回、市職員の訪問があり利用者から話を聞いたり、事業所の様子を見に来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月1回会議を行い、ケアの見直しや身体拘束、言葉のロック等をしない介護「身体拘束ゼロ」に取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、毎月1回会議を行い、ケアの見直しや身体拘束、言葉のロック等をしない介護「身体拘束ゼロ」に取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し毎月会議を行っている。会議では身体拘束をしないケアに関する事例を挙げて話し合い、支援する取り組みを工夫している。会議録は回覧し、全職員が確認して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、利用者の行動を制限する言葉は使わないよう気をつけているが、気づいた時には職員間で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	コンプライアンス推進会議を毎月1回行い年間テーマに添って意識強化を図りケアの向上や虐待を見逃さないネットワーク作りをしている。	コンプライアンス推進会議を毎月1回行い年間テーマに添って意識強化を図りケアの向上や虐待を見逃さないネットワーク作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月1回様々な内容で勉強会を行いその中で権利擁護に関する内容の理解、活用例を勉強している。相談があった場合等にいつでも対応出来る様に支援体制を整えている。	毎月1回様々な内容で勉強会を行いその中で権利擁護に関する内容の理解、活用例を勉強している。相談があった場合等にいつでも対応出来る様に支援体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書の内容を十分に説明を行うと共に、質問があった場合にはその都度双方で話し合い同意を得ている。	契約時に契約書・重要事項説明書の内容を十分に説明を行うと共に、質問があった場合にはその都度双方で話し合い同意を得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームおおさとの憩**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時、その都度意見を頂くと共に玄関先に意見箱を置きいつでも記入出来る様にしている。速やかに対応出来る体制や直接本社に意見が出せるような体制も整えている。	家族が面会時、その都度意見を頂くと共に玄関先に意見箱を置きいつでも記入出来る様にしている。速やかに対応出来る体制や直接本社に意見が出せるような体制も整えている。	1日に2〜3組の家族等が面会に来ている。担当職員が決められているので、家族との信頼関係が出来ていて、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。出された意見、要望等はケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、定期的な個別面談、普段のコミュニケーションから職員の意見を聞く場を多く設け現場の意見を取り入れている。現場の声を管理者会議やリーダー研修にて提案している。	全体会議、定期的な個別面談、普段のコミュニケーションから職員の意見を聞く場を多く設け現場の意見を取り入れている。現場の声を管理者会議やリーダー研修にて提案している。	全体会議や必要に応じた個人面接などで職員からの意見、要望を聞くようにしている。管理者に直接言いつらい場合は、フロアリーダーに話し、リーダー会議で管理者に伝えている。日常的に関わりのある職員から車いすに乗った状態で計れる体重計の要望があり、購入してケアに反映した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来る環境作りをしている。各資格手当や人事考課を取り入れた賞与・昇給、能力に応じた給与体系を実施している。また様々な講習会、資格取得の為の情報提供、参加を促している。	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来る環境作りをしている。各資格手当や人事考課を取り入れた賞与・昇給、能力に応じた給与体系を実施している。また様々な講習会、資格取得の為の情報提供、参加を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が率先して研修に参加出来るよう支援している。毎月1回リーダーが本社のリーダー研修で学んだ事を全職員に周知し、介護レベルの向上を図っている。	職員が率先して研修に参加出来るよう支援している。毎月1回リーダーが本社のリーダー研修で学んだ事を全職員に周知し、介護レベルの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者や社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。	地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者や社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に担当を決め、本人、ご家族等の信頼関係の構築、安心して生活出来る環境作りを努めている。	利用者に担当を決め、本人、ご家族等の信頼関係の構築、安心して生活出来る環境作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、利用者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係作りを努めている。	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、利用者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当職員、計画作成担当者がアセスメント、モニタリングを行い、確実な課題分析をし、自立支援に必要なフォーマル、インフォーマルなサービスに繋げ、利用者に合ったサービスが利用できるように努力している。	担当職員、計画作成担当者がアセスメント、モニタリングを行い、確実な課題分析をし、自立支援に必要なフォーマル、インフォーマルなサービスに繋げ、利用者に合ったサービスが利用できるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来る事やしたい事を中心に共同生活住居を構築出来るよう努力している。	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来る事やしたい事を中心に共同生活住居を構築出来るよう努力している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおさとの憩

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に、生活状態や連絡事項、行事のお知らせを「OOSATO IKOI」新聞に盛り込んでお伝えしている。またブログにて毎日更新している事もお伝えしている。ご家族との接点を多くし、一緒に支えていく関係作りを行っている。	毎月ご家族に、生活状態や連絡事項、行事のお知らせを「OOSATO IKOI」新聞に盛り込んでお伝えしている。またブログにて毎日更新している事もお伝えしている。ご家族との接点を多くし、一緒に支えていく関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友達、家族がいつでも会いに来れたり、行けたりできる環境作りを提供している。	親戚や友達、家族がいつでも会いに来れたり、行けたりできる環境作りを提供している。	家の掃除をしに行ったり、家族と一緒に外食したり、元同僚や近所の人々の訪問があったりなど、人と場所のつながりが継続できるように支援に努めている。また、2か月に一回事業所に来る美容院が馴染みとなり新たな関係が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、行事や日々の生活で関わり合いを多くし、共同生活を支える様に支援している。また本人の生活スタイルを尊重し、1人で過ごせる時間も大切にしている。	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、行事や日々の生活で関わり合いを多くし、共同生活を支える様に支援している。また本人の生活スタイルを尊重し、1人で過ごせる時間も大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は関係が途切れてしまいがちだが、これまでに築いた信頼関係を大切にしたい要望や相談があればいつでも対応出来るよう努めている。	サービス終了後は関係が途切れてしまいがちだが、これまでに築いた信頼関係を大切にしたい要望や相談があればいつでも対応出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族に接する中で思い、意向をくみ取り職員間で共有し本人の意向に沿ったサービスを提供するように努めている。意思疎通困難な利用者にもその方の立場に立った考え方をしよう努めている。	利用者、家族に接する中で思い、意向をくみ取り職員間で共有し本人の意向に沿ったサービスを提供するように努めている。意思疎通困難な利用者にもその方の立場に立った考え方をしよう努めている。	日頃の関わりの中で、利用者同士の会話等から利用者の思いや、意向の把握をしている。意思疎通が困難な利用者は理解するためのアプローチとして好きな物や新聞を読むなどして、表情などからさりげなく確認するようにしている。また、日記を毎日書いている利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族からアセスメントを取り情報収集を行い、生活歴、性格、既往歴など把握するように努めている。親戚、兄弟、友人、知人からの情報収集も行っている。	入居前に本人や家族からアセスメントを取り情報収集を行い、生活歴、性格、既往歴など把握するように努めている。親戚、兄弟、友人、知人からの情報収集も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護、介護記録、日報、連絡帳などで知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し、本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。	看護、介護記録、日報、連絡帳などで知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し、本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や介護計画見直し時に、担当職員、本人、家族の意見を介護計画に反映できるよう努めている。本人のADLに合わせて、サービスの追加、変更を行っている。	ケース会議や介護計画見直し時に、担当職員、本人、家族の意見を介護計画に反映できるよう努めている。本人のADLに合わせて、サービスの追加、変更を行っている。	利用者ごとの担当職員が日頃のかかわりの中でモニタリングを行い、アセスメントを含めて関係する職員で意見交換をして利用者、家族の意見、要望を入れた介護計画を作成して家族の同意を得ている。3か月から6か月で見直し、身体の状態や家族の要望に変化が生じた場合は、都度、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や本人の言葉や行動を記録に残し、職員間で共有し生活の中での様子を把握し、本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。介護サービス提供状況を評価し、次の計画プランに活かしている。	ケアプランの実施状況や本人の言葉や行動を記録に残し、職員間で共有し生活の中での様子を把握し、本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。介護サービス提供状況を評価し、次の計画プランに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおさとの憩

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の要望に対して、柔軟に対応するように努めている。外部サービスでヤクルト販売、訪問マッサージ、訪問美容等を取り入れたり、ご家族に協力して頂いて希望に添えるように努めている。	利用者、ご家族の要望に対して、柔軟に対応するように努めている。外部サービスでヤクルト販売、訪問マッサージ、訪問美容等を取り入れたり、ご家族に協力して頂いて希望に添えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き、積極的に参加し、施設の行事には、地域の方々を招待して交流を深めている。	運営推進会議にて地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き、積極的に参加し、施設の行事には、地域の方々を招待して交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回内科医が往診に来ている。その他に地域の総合病院と連携協定書結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心掛けている。	月に2回内科医が往診に来ている。その他に地域の総合病院と連携協定書結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心掛けている。	入居前からのかかりつけ医に受診の際は、家族同行で受診している。受診時は家族用、先生用に介護記録のコピーを渡して普段の様子を伝えるようにしている。他の利用者は、月2回の往診医を希望するかかりつけ医としている。受診結果については、家族と情報の共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と情報を共有し、医療分野において相談できる環境を作っている。体調管理を心掛け、緊急時の早期対応を心掛けている。	施設看護師と情報を共有し、医療分野において相談できる環境を作っている。体調管理を心掛け、緊急時の早期対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には速やかに介護サマリーを作成し、医療関係者と情報交換を行い対応している。また協力医療機関に対し、入院時の情報を出来るだけ詳細に頂いている。また、定期的に様子観察を行う為病院へ伺い情報交換をしている。	入院の際には速やかに介護サマリーを作成し、医療関係者と情報交換を行い対応している。また協力医療機関に対し、入院時の情報を出来るだけ詳細に頂いている。また、定期的に様子観察を行う為病院へ伺い情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを出来る環境作りを努めている。	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを出来る環境作りを努めている。	入居時に事業所が対応し得るケアについて説明を行い、重度化に関する指針にサインしてもらっている。重度化する毎に話し合いを行い家族等の意向を踏まえて、医師、職員が連携をとり、安心と納得が得られた場合は、随時意思を確認しながら取り組めるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また年に2回南甲府消防署の協力を得て救急法や通報訓練、消防訓練等をし緊急時に備えた研修を受けている。	緊急時のマニュアルを作成している。また年に2回南甲府消防署の協力を得て救急法や通報訓練、消防訓練等をし緊急時に備えた研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	南甲府消防署に依頼し避難訓練を行っている。地域の方、民生委員、地区組長に声をかけ参加の協力を頂けるようお願いしている。迅速に対応出来るよう様々な災害を想定した訓練を繰り返し行っている。	南甲府消防署に依頼し避難訓練を行っている。地域の方、民生委員、地区組長に声をかけ参加の協力を頂けるようお願いしている。迅速に対応出来るよう様々な災害を想定した訓練を繰り返し行っている。	年2回、南甲府消防署の協力を得て、避難訓練を実施しているが、1回は夜間体制を想定した訓練を行っている。災害時は大きな声を出して地域に呼びかけ、住民の協力を得られるよう体制を築いている。運営推進会議で災害時の行動計画等、必要性の意見があり防災マニュアルを作成した。	作成した防災マニュアルを使い、火災、地震、台風、水害、大雪などを想定して、いざという時に確実な避難誘導ができるように、職員と利用者が一緒に訓練を繰り返し、昼夜を問わず避難できる方法を全職員が身につけることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の運営理念を共有し、コンプライアンス推進委員会、身体拘束委員会、事故防止委員会を設置し職員全体で利用者の尊重とプライバシーの確保に努めている。接遇マナー研修を随時行い徹底している。	施設の運営理念を共有し、コンプライアンス推進委員会、身体拘束委員会、事故防止委員会を設置し職員全体で利用者の尊重とプライバシーの確保に努めている。接遇マナー研修を随時行い徹底している。	運営理念や接遇マナー研修、コンプライアンス推進委員会等研修する機会は多くあり、マナーの基本を学んでいる。利用者を人生の先輩として尊重し、自己決定しやすい言葉かけをするよう配慮した対応に努めている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおさとの憩

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の趣向を把握し、「自己決定」が出来るような声かけや支援を心掛けている。利用者の個別担当職員がその方の思い、希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるよう支援し、自己表現を促しやすい環境作りをしている。	個人の趣向を把握し、「自己決定」が出来るような声かけや支援を心掛けている。利用者の個別担当職員がその方の思い、希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるよう支援し、自己表現を促しやすい環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人のその日の状態に添って穏やかに過ごして頂けるように努めている。利用者の思いや希望を大切に自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。	利用者個人のその日の状態に添って穏やかに過ごして頂けるように努めている。利用者の思いや希望を大切に自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	生活チェック表を作成し毎日、清潔保持が出来るよう支援している。訪問美容を依頼している。利用者には職員がお化粧をしたり毎日整髪して生活に活力が出る様努力している。	生活チェック表を作成し毎日、清潔保持が出来るよう支援している。訪問美容を依頼している。利用者には職員がお化粧をしたり毎日整髪して生活に活力が出る様努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人用の食器等も用意し、配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなど、その方のADLに合わせて支援している。献立の記録は利用者が毎日書いている。	個人用の食器等も用意し、配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなど、その方のADLに合わせて支援している。献立の記録は利用者が毎日書いている。	本部から栄養士が作成した献立表が届き、生鮮食品は週2回、地域の大手スーパーから配達され、他の食材は冷凍で届けられている。調理や食事の片づけなどは利用者の個々の力を活かして職員と一緒にやっている。行事食、季節食、誕生日食は利用者の好みを書いてメニューを変更している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューに添って、食事の提供を行っている。また行事等では利用者から希望を聞き、提供している。水分量はその都度チェックし記録をして把握している。必要に応じて看護師に水分量を相談している。	栄養士が作成したメニューに添って、食事の提供を行っている。また行事等では利用者から希望を聞き、提供している。水分量はその都度チェックし記録をして把握している。必要に応じて看護師に水分量を相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は実施して頂いているが、必ず職員がきちんと磨いているかチェックを行っている。介助が必要な方には毎食後職員が口腔ケアを行っている。地域歯科医と連携を取り必要に応じて受診を行っている。	自分で出来る方は実施して頂いているが、必ず職員がきちんと磨いているかチェックを行っている。介助が必要な方には毎食後職員が口腔ケアを行っている。地域歯科医と連携を取り必要に応じて受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄リズムを把握し、合わせた時間に声かけを行いトイレ誘導をし排泄して頂く様支援している。	利用者の排泄リズムを把握し、合わせた時間に声かけを行いトイレ誘導をし排泄して頂く様支援している。	声かけによりトイレ誘導をすることで排泄できる利用者が多く、一人ひとりに合わせた支援を行っている。自宅ではおむつを使用していた利用者が水分量や1週間の記録から排泄パターンを把握して、声かけをして誘導することにより、トイレで排泄できるよう自立にむけた支援を行い、布パンツを使用するようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の活動を良くする為、散歩等の声かけ、体操の時間、リハビリの時間を定期的にする事により、便秘防止に努めている。十分な水分摂取を促したり、食事、おやつ等も工夫している。	腸の活動を良くする為、散歩等の声かけ、体操の時間、リハビリの時間を定期的にする事により、便秘防止に努めている。十分な水分摂取を促したり、食事、おやつ等も工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り利用者の希望に添った入浴に努めている。シャワー時、足浴しながら身体を洗って浮腫対策をしている。入浴温度を利用者に、確認してもらいながらゆっくりお風呂を楽しんでもらっている。	出来る限り利用者の希望に添った入浴に努めている。シャワー時、足浴しながら身体を洗って浮腫対策をしている。入浴温度を利用者に、確認してもらいながらゆっくりお風呂を楽しんでもらっている。	毎日、午前中に入浴している。基本的に週2回としているが、必要に応じていつでも入浴することができる。シャワー浴の時には、足浴しながら体を洗う配慮をしている。浴槽は家庭風呂の大きさと、浴槽の側面が開き、身体機能が低下しても入浴することができるような仕様になっている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームおおさとの憩

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(松)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに合わせて休息を促すように支援している。就寝前はゆっくりとお茶を飲み穏やかな気持ちで過ごせる様に支援している。	利用者の生活リズムに合わせて休息を促すように支援している。就寝前はゆっくりとお茶を飲み穏やかな気持ちで過ごせる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理をしている。薬の内容については職員全員が利用者の服薬状況を把握するよう社内研修を行っている。社独自の服薬マニュアルを朝の申し送り時に唱和し服薬マニュアルに添って服薬介助を行っている。	看護師が管理をしている。薬の内容については職員全員が利用者の服薬状況を把握するよう社内研修を行っている。社独自の服薬マニュアルを朝の申し送り時に唱和し服薬マニュアルに添って服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク活動を充実させるようにレク担当職員を決め、利用者の嗜好調査を行い、喜んで頂けるように心掛けている。	レク活動を充実させるようにレク担当職員を決め、利用者の嗜好調査を行い、喜んで頂けるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	介護付有料老人ホームの職員と連携し利用者が多く外出出来る様努めている。いちご狩り、買い物、ボランティアの参加、地域の催し等、職員のシフトの人員を増やし積極的に外出できるよう支援をしている。	介護付有料老人ホームの職員と連携し利用者が多く外出出来る様努めている。いちご狩り、買い物、ボランティアの参加、地域の催し等、職員のシフトの人員を増やし積極的に外出できるよう支援をしている。	日常的に中庭を散歩したり、体操をしたり、近くの公園に行くなど短時間でも戸外に出る機会を作っている。また、年間外出計画で家族、民生委員、ボランティアの協力を得て、季節を感じられる外出を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者のみ財布を持ち買い物や外出時に支払っている。また、財布所持に安心を感じる利用者にはご家族と話し合い落ち着かれるよう所持出来る支援を行っている。	金銭管理ができる利用者のみ財布を持ち買い物や外出時に支払っている。また、財布所持に安心を感じる利用者にはご家族と話し合い落ち着かれるよう所持出来る支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がいつでも出来る環境にあり、家族への手紙や電話を取り繋いでいる。また、携帯電話を所持している利用者には、充電の管理、着信の有無などの支援を行っている。	電話がいつでも出来る環境にあり、家族への手紙や電話を取り繋いでいる。また、携帯電話を所持している利用者には、充電の管理、着信の有無などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、リビング、玄関、居室入口の表札には季節に応じて季節感ある飾り付けを行っている。天気の良い日は窓を開け風通しを良くして季節を感じて頂いている。	廊下、リビング、玄関、居室入口の表札には季節に応じて季節感ある飾り付けを行っている。天気の良い日は窓を開け風通しを良くして季節を感じて頂いている。	利用者が日中過ごしているリビングは、大きな窓から中庭が見渡せ明るく開放感がある。リビングにはダイニングテーブルやソファが置かれ、ゆったりとテレビを見ながらくつろぐことができる。フロア内には季節の花や利用者の作品が飾られ、居室の表札にも折り紙で作った季節感のある作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前やリビングに長座椅子を設置し、コミュニケーションが取れる空間を作ると共に、テラスから畑や中庭の花を見て癒しとなるよう工夫している。	玄関前やリビングに長座椅子を設置し、コミュニケーションが取れる空間を作ると共に、テラスから畑や中庭の花を見て癒しとなるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味の物を展示したり、馴染みのある物を置いたりして生活に活気が出るように工夫している。ご家族の希望があれば宿泊も出来る体制になっている。	趣味の物を展示したり、馴染みのある物を置いたりして生活に活気が出るように工夫している。ご家族の希望があれば宿泊も出来る体制になっている。	2ユニットある居室は、畳に障子の和室とクッションフロアにベットの洋室で各居室に机、椅子、整理棚が備え付けられている。衣装ケースやタンス等持ち込まれ、写真、手作りの作品、習字などが飾ってあり、それぞれの利用者の居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に安心して過せるような設計になっている。安全に生活できるように、居室、共有部分の整理整頓に気を配っている。	利用者が安全に安心して過せるような設計になっている。安全に生活できるように、居室、共有部分の整理整頓に気を配っている。		